

二〇二三年 二月一日 午前

— 国語 —

第一回 一般選抜入試

(五十分／百点満点)

注 意

- ① 指示があるまで開いてはいけません。
- ② 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- ③ 質問がある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気分が悪くなった場合は、だまって手をあげなさい。
- ④ 、。『』はそれぞれ一字と考えなさい。

受 験 番 号

氏 名

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

院内学級（入院している子どもたちが学ぶ教室）で一緒に勉強している一健と良志と昂。知樹は少し遅れて入院し、特別にパソコンの使用が認められている。

次の日、一健は売店で新しいノートを一冊買って来た。それだけで胸が高鳴った。ただでさえ、新しい文房具はやる気になるものだが、これから行うことが、ことさら気分をかきたてる。

神妙な手つきで表紙を開いて、シャーペンで書きつける。

“トレジャーハンター計画”

トレジャーは財宝、ハンターは狩人という意味だ。この場合のトレジャーは言うまでもなく、良志の作った物語を意味する。このノートは、物語を無事に手中に収めるまでの計画をしたための計画書だ。

タイトルを書くとき、一健は病室のドアを閉めてから、良志のそばに立って、ほかの二人に向かつて言った。

「ちよつとみんなに話があるんだけど」

「何？ 何？」

テレビを見ていた昂が声をあげた。知樹のカーテンは閉まったままだったが、一健はもったいぶって宣言をした。

「えー、じつは秘密の作戦を決行します」

「秘密？ 作戦？」

「しーっ」

二つのワードだけで、すでに色めきたった昂を抑えつつ、一健は小声で続けた。

「これから、トレジャーハンターチームを結成します」

「トレジャー、ハンター、チームって？」

昂は丁寧（ていねい）に繰り返して、首をかしげた。

「みんなで力を合わせて、お宝をゲットするチームだ」

「みんなでお宝？ やったー」

それをきくと、昂は万歳（ばんざい）をしたままベッドにうつぶせに倒れた。

シャッ。

すると、閉まりっぱなしのカーテンが少し開いた。珍しく知樹が顔を出す。パソコンを手に入れた知樹は、すっかり大人しくなると同時に、他人には無関心にもなっていた。

自分のベッドの周りをパソコン機器と分厚い説明書でバリケードのように囲い、パソコン島の住民みたいになっている。囲いの中で、知樹は一言も発さず、夜中までいつもゴソゴソやっていた。

「おつ、知樹も一緒にやろうぜ」

顔を出した知樹に、一健はなるべく楽しげに話しかけてみた。スパイを生まないためにも、ここは何としても巻き込んでおかなければならない。

知樹から返事はなかったが、興味がない訳ではなさそうだ。

シャーツ。

カーテンがさらにもう少し開かれた。

「知樹には計画書をパソコンで作ってもらいたいんだよ」

良志が具体的な役割を頼むと、

シャシャシャーツ。

すっかりカーテンが開いた。これで第一関門は突破だ。

一健と良志は顔を見合わせて、うなずいた。

「では、詳しいことを説明します」

良志のベッドの周りに二人を呼び寄せ、一健は弾みのついた声で前置きし、トレジャーハンターについての説明をした。

良志が作った物語を書いたノートがなくなったこと。それはどうやら屋上にあるらしいこと。トレジャー、つまり財宝はそのノートのことで、それをハント、手に入れること。つまり自分たちがトレジャーハンターなのだというのを簡単に説明し、肝心な注意事項を重々しく告げた。

「これは秘密だ。絶対に大人にばれてはいけない」

「うんっ。秘密だね」

昂は目を輝かせてつばを飲みこんだ。秘密、という言葉にすっかりやられた様子だ。その隣で、丸いすに座った知樹がひざの上のパソコンのキーをならし始めた。

カタカタカタ……

「おおっ」

のぞきこんでみて、一健は声をあげた。

パソコン画面には、

トレジャーハンター計画書

というタイトルが入っていた。

「なんか本格的だなあ」

感心していると、知樹はさらにキーをカタカタいわせた。すると画面に、勝手に文字が出てきた。

日時

場所

目的

一つか二つ、キーをたたいただけなのに、単語が三つも出ている。

「すっごーい。文字がどんどん出てきた」

昂も感激したように目を丸くした。

ちえつ。

⑤ 一健は音を出さないように、舌うちをした。悔し紛れに、

「定型っていうんだっけ？ それがあるんだよ」

心もとないパソコンの知識で応戦すると、知樹は、

「フォーマットね」

と、わざわざ言葉を訂正した。

「なに、それ」

「決まった事務的な文章。パソコンの中に、よく使う文書の形があらかじめ入っているから、それを呼び出しただけだよ」

「へえ、すっごーい。さすがだね」

へん。

「そんなことより、計画だ」

一健は話を戻して、目的のあとに追加する項目を提案した。

「メンバーも書いてくれ。まずおれだ。千葉一健」

知樹は文字を打ちこんだ。

千葉一健

パソコン画面にいちばんに自分の名前が現れて、一健の気持ちは少し治まった。背筋をぴんと伸ばす。

「それから、良志な。高田良志、松島知樹、稲富昂」

「やったあ」

自分の名前が呼ばれると、昂は万歳をした。

知樹は、壁にはってあるネームプレートを確かめながら、四人の名前を流暢に入れた。

「それから、篠田早弓」

良志が言った。言いながら、ちらっと一健のほうを見たので、また顔が赤くならないかあせったが、赤くなつたのは昂だった。

「え、女子も？ じゃあさ、里央ちゃんも？」

「うーん。小さい女の子はどうか」

「ええーっ。里央ちゃんもさそおうよ」

「いいんじゃない、一健。女子が一人じゃ早弓もなんだろうから、みんなメンバーに入れとこう」

「そうだな。じゃあ、佐原日彩と吉住里央」

漢字は、一健がノートに書いてみせ、知樹は名前を追加した。

「で、いつやる？」

メンバーが決まっただけでも力がわいて、一健は上半身を乗り出した。

「早く行こうよ、今日はどう？」

昂はさらに前のめりだ。

「それは無理だよ。えーっと。今日が十月七日、水曜日だから……」

一健は、壁のカレンダーを指さしながら言った。それぞれのベッドの脇には、カレンダーがはられていて、診察や検査の予定が書きこまれている。

「土曜日がいいよ」

と、良志。

「土曜日は、外泊の子が多いから、そもそも病院内に子どもが少ない。ということは大人も少ない。それだけでも見つかる危険性は低い」

さすがは良志だ。

「土曜日、じゃあ十日だね」

昂が鼻息を荒くした。

「それも早いよ。まだ女子にも言ってない」

「てことは、十七日？」

「うーん。次の道徳はいつだっけ？」

「まだ決まってるないよ」

良志の質問に答えながら、一健はそもそもの目的を思い出した。さすがは良志だ。

「じゃあ、三十一日だ。十月三十一日」

「ずいぶん先だな」

勢いを止められたようで、一健は少し不満だった。そのうえ、知樹が知ったふうなことを言った。

「こういうことは、しっかり計画を練ったほうがいいんだよ。道徳はその後にしてもらうように頼もう」

「ちえっ」

今度は音を出して舌うちをすると、良志が言った。

「十月三十一日は、満月なんだよ。しかもブルームーンという特別な月だ。青い月っていう意味」

「ええっ。月が青いの？ 見たーい。ぼく、星も月も大好き」

自分と同じ名前を持つ星があるせいか、昂は喜んだ。

「ラッキーニンジンも星形だもんな」

一健が言うと、良志は二つの意外な共通点を教えてくれた。

「ブルームーンは月が青いつてわけじゃないけど、見れば願いがかなうって言われている。ラッキーニンジンと同じだな」

「やったー。絶対見るぞー」

昂が飛び跳ねた。

カタカタカタ。

盛り上がる三人を尻目に、知樹は淡々とキーの音をならして、日時 of 欄を埋めた。

日時 十月三十一日(土)

「何時？」

「それはもちろん夜だろう」

一健は自信を持って答えた。月といえば夜だ。

「夜中にこっそり抜け出そう」

口に出しただけでわくわくしたが、水^⑥を浴びせかけるような冷ややかな声がした。

「それはどうかな」

知樹だった。

「夜中に大勢でぞろぞろ動いたら危ないんじゃないか」

「ふんっ、ちっ」

一健は大きく鼻をならした。舌うちもおまけた。口と鼻で反発したら、がまんしていた言

葉が出てきた。

「知ったようなこと言なよ」

新入りのくせに。

続けたい言葉は、なんとか抑える。

「知ったようになって、おれは知ってるんだよ。この病院、夜中もしょっちゅう廊下を歩く音がしてるぜ。看護師さんは、二時間置きくらいに部屋に入ってくるし。千葉くんは寝てるから知らないだけだよ」

ばかにされたようで、一健はいきり立った。

「そういうお前は、消灯時間に起きてるんだな。どうせパソコンやってるんだろう」

「パソコンは開いてない。説明書を読んでただけだ。読書灯は禁止されてないからな」

「夜は寝ろよ。だいたいお前はわがままなんだよ」

こうなったら、もう止まらなかった。

「みんなパソコンとか、がまんしてんだよ」

「持つてくればいいじゃん。おれが、許可をとりつけてやったから」

「そういうことじゃない。少しはがまんしろって話だ。それに自分の手柄にすんなっ」

「事実を言ってるだけだけ」

「調子にのんやよ」

一健は声を張り上げた。その声に、カーツと熱が体を駆け巡ったみたいになった。

「だいたい体も悪くないくせに、入院してんじゃねえよ。学校へ行けよっ」

熱に任せるみたいに口から飛び出したのは、思ってもみない言葉だった。

あちやつ。

瞬時に後悔したが遅かった。

知樹の目つきが、キツと変わった。

「なんだとーっ！」

知樹がパソコンを持ったまま立ち上がった。

「わっ、やめろ」

パソコンで殴られるかもと、一健が反射的に頭をガードしたときだった。

「これこれこれっ」

声とともに、誰かが近づいてきた。腕の隙間から見たのは、なかよしさんだった。

「けんかはだめだぞー」

なかよしさんは、のんびりしたような声でそう言い、知樹をいすに座らせた。そして首か

ら下げたネームカードを二人の前にかざした。

「これに免^{めん}じて、なかよくね」

「ダジャレかよ」

一健は、やつとのことですう言った。

(まはら三桃『かがやき子ども病院 トレジャーハンター』)

問一

1 「胸が高鳴った」2 「流暢に」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

1 「胸が高鳴った」

ア 期待や希望で興奮した

イ 突然^{とつぜん}のことにおどろいた

ウ 初めての経験に気分が高まった

エ これまでにない喜びを感じた

オ 不安や心配におびえた

2 「流暢^{りゅうちやう}に」

ア とまどうことなく思い切りよく

イ まっすぐまじめに

ウ むだなく効率良く

エ 流れるように規則的に

オ すらすらとよどみなく

問二

① 「これから行うこと」とありますが、具体的にはどのようなことをするのですか。二十〜三十字で答えなさい。

② 「スパイを生まないためにも、ここは何としても巻き込んでおかなければならない」とありますが、なぜ知樹を巻き込む必要があったのですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 知樹が大切な計画書の作成を断ると、パソコンで作成する計画書ができなくて盛り上がらないと思ったから。

イ 知樹はもともと仲のよいメンバーではなかったので、今回の計画を大人に言いふらしてしまうと考えていたから。

ウ 知樹が協力せずに自分たちと行動をともにしないと、大人に秘密をばらされてしまうと思ったから。

エ 知樹を仲間に入れておかないと、これまで計画したことを実行することができなくなると不安に感じたから。

— 国語 ①一般 7 —

問四

オ 知樹しか知らない大人たちの見回り時間を、聞くことができなくなると思っ
たから。

③ 「これで第一関門は突破だ」とありますが、第一関門とはどのようなことを指しますか。二十〜三十字で答えなさい。

問五

④ 「昴は目を輝かせてつばを飲みこんだ」とありますが、この時の昴の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これから実行する計画に対して大きなくごを決めている。

イ 乗り気でない気持ちをおさえ計画を受け入れている。

ウ 財宝を手に入れるというのを聞いてわくわくしている。

エ これから行う秘密の行動に期待をふくらませている。

オ 秘密をもらさないように自分の中に飲みこんでいる。

問六

⑤ 「一健は音を出さないように、舌うちをした」とありますが、この時の一健の気持ちを説明した次の文の□にあてはまる語句を、本文中から五文字以内で抜き出して答えなさい。

一健は知樹との関係をこわさないように□した。

問七

⑥ 「水を浴びせかけるような冷ややかな声でした」とありますが、その声は一健にはどのように聞こえたのですか。この表現を説明した文として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 話している相手の考えをばかにしたような声。

イ 盛り上がっていた気持ちを否定するような声。

ウ 熱くなった気持ちをなだめるような声。

エ 自分の気持ちだけを冷たく伝えるような声。

オ 自分の情報を仲間に見せびらかすような声。

問八

~~~~~  
A 「瞬時に後悔したが遅かった」とありますが、一健はどのようなことを後悔したのですか。五十〜六十字で答えなさい。

【二】 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

現代は「失敗に厳しすぎる時代」と言えるでしょう。

ひと昔前は「失敗しちやっただけ、自分のまわりの一部のひとにしか気づかれていないし、そのうちすっかり忘れられるだろう」などと気楽に考えていられた。

A しかしいまは違います。

「過去の不適切な発言」という失敗によって、世間から大バッシングを受け、急きよ、二〇二一年夏のオリンピック・パラリンピックの開会式の総合演出の座から外されたアーティストや芸人がいたことは記憶に新しいと思います。

失敗に対して、世間があまりにも厳しいという事実は、有名人に限られたことではありません。

たとえ一般人であっても、軽い気持ちでSNSにのせた写真や発言が、名前も顔もわからない匿名の大勢のひとたちからの批判や誹謗中傷の対象となってしまう、人格否定にまで至る大失敗となってしまうばかりか、「デジタル・タトゥー（ネット上から消せない傷跡）」となつて、延々と苦しめられるケースも珍しくありません。

タレントや著名人ではなくても、私たちの誰もが「もし失敗したら、見知らぬ大勢のひとたちからネット上で袋叩きにあうかもしれない」と怯えてすごさなければならぬ時代に生きています。

そんな息苦しい今だからこそ、私が発案し、研究を続けてきた「失敗学」の必要性が増しているのです。

ただ、よく誤解されることがあるので、ここであえて言っておきます。

失敗学は「失敗しないための学問」ではありません。

失敗学は「創造的(クリエイティブ)に生きるための哲学」です。

たしかに、失敗学を学んだひとは、学ばないひとよりも、失敗する可能性を低くすることができるよう。

「だったら、やっぱり失敗学は失敗しないですむために必要な学問なんじゃない？」と思うかもしれません。

残念ながら、その考え方は間違いだと言わざるを得ません。

理由は二つあります。

一つは、日頃からどんなに用心深く行動しても、あるいは、どれほど失敗学を身につけたとしても、それでも「失敗」というものは必ず起こるからです。

あなたのまわりのひとたちのなかに「絶対に失敗しないひと」はいるでしょうか。どんなに完璧なひとに見えても、生まれてからこれまでの人生のなかで「私は一度も失敗したことがない」と断言できるひとはいないと思います。

十数年前まで、原子力発電に関わる機関の発表資料等では「原子力発電は絶対に安全な発電技術」とされてきました。言い換えれば「原子力発電事業は絶対に失敗しない」と信じられていたのです。

しかし、二〇一一年三月に起こった東日本大震災で、私たち日本人を含めた世界中のひとびとが悲惨な原発事故という「取り返しのつかない失敗」を目の当たりにして以降、そんな「安全神話」は完全に消え失せました。

どんなに注意しても、どれほどたくさん知識を蓄えても、失敗を完全に防ぐことはできない——つまり、失敗学の目標は「絶対に失敗しないこと」ではないのです。

もう一つの理由は、もし「失敗学を身につけて、とにかく失敗しないように」とばかり考えて、失敗に怯えながら過ごしていたら、成功する機会も、成長するチャンスも失ってしまう、人生がとてつもらないものになってしまうからです。

失敗は必ず起こってしまうのですから、「絶対に失敗しないように」などというムダな考え方は捨てて、つい失敗してしまったら、気持ちを切り替えて「絶好のチャンス！」と考え、「なぜ失敗したのか」「この失敗からどんなことが学べるのか」を徹底的に分析・整理して、その後の自分の人生の糧にする知識やノウハウをきちんと身につけることが大切なのです。

その「分析・整理」や「糧にすること」の具体的な方法を学んで身につけるのが「失敗学」の目標です。

つまり、取り返しのつかないような大失敗ではなく、後からリカバーできるような失敗であれば、恐れることなく、「チャンスだと思ったら果敢にチャレンジできる自分」になるための哲学なのです。

ここまで説明してきた二つの理由から、「失敗学は失敗しないための学問ではない」となるわけです。

では、「失敗学を学ぶこと」によって得られるメリット」とはなんでしょうか。

まずは「自分の経験した失敗から正しく学ぶ方法を身につけることで、取り返しのつかないような大失敗の起こる可能性を下げられる」ということです。

しかし、その先には、もっと大きなメリットがあります。

大きな失敗が起きる可能性を下げ、小さな失敗を必要以上に恐れなくて済むようになれば、本当は「成功するかどうかわからないけれど、こんなことをやってみたいな」と思っ

いたことにチャレンジできる自信が持てるようになります。

しかも、失敗学で会得した「自分の経験した失敗から正しく学ぶ方法」を発展させると、「思いついたアイデアを実現する方法」にも応用できます。すなわち「失敗学を身につければクリエイティブな生き方ができるようになる」のです。

それは「創造学」とでも呼ぶべき新たな哲学と言えます。

(畑村洋太郎『やらかした時にどうするか』)

\* バッシング・誹謗中傷……他人の悪口を言いふらし傷つけること。

\* 匿名……自分の名前をかくして知らせないこと。

\* 糧……人生を豊かにするもの。

\* ノウハウ……ものごとの知識やコツ。

\* リカバー……回復すること。取り戻すこと。

\* 果敢に……思い切って行うさま。

問一 ①「怯えてすごさなければならぬ時代」とありますが、それはどのような時代ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 小さな失敗さえ許されず、いつも緊張していなければならない時代。

イ 一般人はタレントや有名人とは違うことを認識しなければならぬ時代。

ウ 失敗しても、そのうち忘れられるだろうと気楽に考えられる時代。

エ タレントや有名人だけが批判や誹謗中傷の対象となってしまう時代。

オ 大勢のひとたちから批判されないように気をつけなければならない時代。

問二 ②「よく誤解されることがある」とありますが、どのように誤解されるのですか。三十〜四十字で答えなさい。

問三 ③「その考え方は間違いだと言わざるを得ません」とありますが、考え方が間違いないのはなぜですか。その理由として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 失敗しないで済む方法があるならば、失敗学を学んだ方が得になるから。

イ 失敗しないことばかり考えると、人生がつまらないものになってしまうから。

ウ 絶対に失敗しないひとになれるのは、努力してもわずかな数しかないから。

エ 完璧な人に見えても、人生で一度も失敗したことがない人はいないから。

オ 日本には、失敗しても大きな問題にならない「安全神話」が存在するから。

カ 失敗してしまうと、それまでの努力もすべてむだになってしまうから。

問四

④「ムダな考え方」とありますが、どうしてムダな考え方だと言えるのですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗してしまうと、人生がとてもつまらないものになってしまうから。

イ 絶対に失敗しないような優れた人は、わずかな数しかないから。

ウ 絶対に失敗しないようにと思っても、失敗は必ず起きるものだから。

エ 失敗すると、それまで蓄えてきた知識もなくなってしまうから。

オ リカバーできる失敗であれば、それは失敗とは言えないから。

問五

⑤「失敗学は失敗しないための学問ではない」とありますが、失敗学の目的とはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗を自分の人生の糧にする知識やノウハウを見つけること。

イ わざと小さな失敗をすることで大きな失敗を避けること。

ウ 小さな失敗を気にしない強い心を身に付けること。

エ どんな小さな失敗もしない知識やノウハウを身に付けること。

オ 大きな失敗から立ち直るためのノウハウを身に付けること。

問六

⑥「失敗学を学ぶことによって得られるメリット」とありますが、そのメリットとはどのようなことですか。適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 失敗を見つけることで、自分が思いついたアイデアを実現できるクリエイティブな生き方ができるようになること。

イ 大きな失敗を恐れることで、何事にも慎重に行動するようになり、危険なチャレンジをしないようになること。

ウ 大きな失敗を恐れず、何事にもチャレンジしていこうとする向上心を持つことができるようになること。

エ 大きな失敗をかくし小さな失敗にみせかけることで、自分を守るノウハウを身に付けることができること。

オ 大きな失敗が起きる可能性を下げることで、自分がやってみたいことにチャレンジする自信が持てるようになること。

カ 大きな失敗も実は小さな小さな失敗の積み重ねにすぎないことを理解することとで、失敗を恐れなくなること。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

【三】 次の①～⑩の　　の漢字はひらがなに、カタカナは漢字になおしなさい。

- ① 命を育む仕事。
- ② 果たして本当だろうか。
- ③ 村を挙げて取り組む。
- ④ 大河にすむ魚。
- ⑤ 暗幕で光をさえぎる。
- ⑥ 今年の冬は、去年よりアタタかい。
- ⑦ 初日の出をオガむ。
- ⑧ シャオンの気持ちをあらわす。
- ⑨ だまってセキゾウのように立つ。
- ⑩ 機械の操作にジュクタツする。

[illegible][illegible]

受験番号		氏名		得点	
------	--	----	--	----	--